

ひよこだより

都立大塚ろう学校 乳幼児教育相談
平成30年12月7日 NO. 8

やり取りを楽しむ～カレンダーを用いて～

南村洋子先生の全7回講座「聴こえない・聴こえにくい子の育て方」も、半分近くまでが終了しました。第3回は「視覚的コミュニケーション手段」をテーマに実践的な内容をお話しいただきました。初めてこのシリーズを受講された保護者の方からは「早速、今日から学んだことを取り入れたい。」との御感想をいただきました。また、再受講された保護者の方からは「昨年、受講したときは、私達親子もこんなふうに通じ合えることができるようになるのだろうかと思ったが、生活の中に講座で得た事を取り入れ、今は、本当に楽しくやり取りできるようになった。再受講することで、改めてまだ足りない部分に気付かされ、意識を高めることができた。」との御感想をいただきました。

ひよこ・ことり組のお子さんにとって、視覚的コミュニケーション手段は、分かる・伝わる・通じ合える経験を重ねられるとても大切なものです。

保護者の方々がまず用意してくださるのは、絵・写真カードでしょうか。お子さんの暮らしの中で身近な人・ものを中心に作られる絵・写真カードは、活動前・活動中・活動後に効果的に用いられることによって、名称を知ることや、自分の行動に対する見通しをもてることにつながります。

そして、絵・写真カードを用いて、親子での会話ができるようになると、保護者の方々はコミュニケーションカードに取り組み始めてくださいます。常に持ち歩けるサイズ(A5程度がおすすめとのことです)のノートやメモ帳・自由画帳に、お子さんが体験したことや発見したもの等の絵を描き、分かりやすい単語や2～3語文、ゴシゴシやフワフワなどの擬態語を添えて、親子のやり取りに使うことで、お喋りから書記日本語への第一歩になるとともに、お子さんの伝えたいことや気持ちを拡充することにつながります。

このように、視覚的コミュニケーション手段を活用しながら、親子のやり取りを続ける中で、お子さんが時間の流れに興味が出たところに併せて活用すると有効なのが「カレンダー」です。今月は、このカレンダーを用いた取り組みについて取り上げます。

カレンダーは親子のやり取りのきっかけとして用いられます。1か月分のカレンダー(模造紙に線を引いて自作される方が多いです)に、体験したことや予定の絵を描き入れます。学校や病院、毎週の習い事などの予定はマークにして毎回同じものを用いても良いですね。また、カレンダーは、お子さんの目線に入る高さ、よく目に留まる場所を選んで貼ることも重要です。

一日の終わりに、カレンダーを目の前にして、「今日は何をして遊んだの?」「今日はどこに行ったの?」など親子でやり取りをしながらカレンダーに簡単な絵を描いてあげます。慣れてくると、お子さんから「今日は〇〇をしたときの絵を描いて。」とリクエストされることもあるそうです。朝起きて、今日の予定をカレンダーと一緒に確認することで、見通しをもたせてあげられます。少し先の楽しみなイベントについてやり取りし、期待を高めることもできますね。また、拾った落ち葉やチケットの半券・パンフレットなどの実物を貼ることで、体験をよりリアルに残し「昨日、拾った落ち葉だね。」「また、遊園地に行こうね。今度は何に乗りたい?」などの会話を広げることができます。

また、カレンダーの面白さの一つに、お子さんの成長や興味に合わせてどんどんアレンジができることがあげられます。例えば、毎朝、天気を確認してカレンダーに描いたり、「きょう」というカードを作って、カレンダー上を動かしたり(後に「きのう」「あした」を加えるのも良いですね。)、楽しみにしているテレビ番組を描き入れることで曜日について意識させたり、それぞれのお子さんに合わせたオリジナルのカレンダーが出来上がります。

親子でやり取りを重ねて完成させたその月のカレンダーは、ぜひ、とっておいてください。翌年、同じ月に出して見比べると、お子さんの成長を実感できると共に、「去年は(〇歳の時は)～だったね。」と、体験を振り返ったり、比べたりすることができます。

では、実際にカレンダーを親子のやり取りに活用し始めて1年以上が経った3歳のAちゃんとお母さんの取り組みを御紹介します。



Aちゃんとお母さんが、カレンダーを用いた取り組みを始めて1年以上が経ちましたね。継続されてみていかがですか？

取り組み始めた当時は、私だけが描いていて、子供は見てくれないこともありました。それでもコツコツ続け、以前から使っていた写真カードとカレンダーの絵をマッチングさせたり、写真カードも貼ったりすることで、イメージが形成されていきました。今では、子供自身がカレンダーの何たるかを理解して活用しているのが分かります。

カレンダーを活用することで、子供自身に見通しをもたせることがとても大切だということが分かりました。見通しがついているときと、ついていないときの本人の行動が全然違うのを目の当たりにし、見通しをもたせることは子供自身が納得し・理解して活動することにつながるのだと思いました。



初期のカレンダーと現在のカレンダーを見比べると、試行錯誤を重ねながら、お子さんの成長に合わせて発展させてこられたことがよく分かります。Aちゃん親子のカレンダーの楽しみ方、活用の仕方、印象深かった出来事を教えてください。

●天気は、Aが朝、カーテンを開けて調べて、報告してくれます。最近では、その日の天気合った色鉛筆を選んで渡してくれるようになりました。雨の日には、カレンダーに雨マークを描き入れていると「(今日は)靴じゃなくて長靴を履くよ。」と表現してくれたこともあります。「きょう」という付箋カードを毎朝、その日の所に動かすのもAの役割です。

●土曜日と日曜日は曜日と日付を赤色で書いています。曜日についてはまだしっかり意識していませんが、「赤い字の日はパパが居る」とAなりの法則を見出しているようです。

●カレンダーの前でその日の予定を確認するのですが、カレンダーのマークと一緒に手話で表現するだけでなく、写真カードも併用することもあります。例えば、公園マークを確認したら、いくつかの公園の写真カードの中から、「今日はどの公園に行こうか。」とAと話合っています。すると、イメージがつながることで期待感が増し、お出かけの準備も積極的にしてくれるようになりました。

●カレンダーで確認したことを、コミュニケーションカードにすることもあります。「病院での注射」の日には、朝、カレンダーで確認し、電車の中でコミュニケーションカードを見ながら病院に向かいました。病院で「ぼくは注射。ママは待っていて。」と表現し、私を残して馴染みの看護師さんと診察室に入って行きました。無事、注射を済ませ、病院の方々にも褒められて、達成感でいっぱい表情をしていました。コミュニケーションカードを併せて使って良かったと思いました。そのコミュニケーションカードはカレンダーに貼って、振り返ることができるようにしました。

●以前、その日の体験を絵に描いても、やり取りが深まりにくかった頃は、人物の所に吹き出しを描いて「どんなお話をしたのかな？」と聞いて、Aの思いを引き出していました。今では、A自ら、この体験をカレンダーに描いて欲しい、これが好きだった等と表現してくれます。さらに、その日に撮った写真の中から、「この場面を描いて。」と詳細なリクエストをしたり、写真・カレンダーの絵・手話のマッチングで言葉を確認したりしています。

●Aが楽しみにしているのは、パパが帰宅したときに、カレンダーの前に引っ張ってきて、その日の出来事を報告することです。私とやり取りしながら仕上げたその日の出来事の絵を、Aなりにもう一度まとめて、パパに表現しています。



初期のカレンダー（Aちゃん2歳2か月）

■一番、印象的な物・事のイラストを大きく描いているので、カレンダーを始めたばかりのお子さんにも重要な情報が捉えやすいですね。

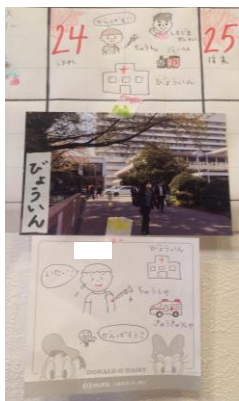


現在のカレンダー（Aちゃん3歳4か月）

■親子のやり取りの量・質が向上するのに伴って、描く情報を増やしていますね。また、写真カードや、コミュニケーションカードと効果的に併用していますね。



■写真カードと併用しているので、その日に行く場所・会う人がとても分かりやすいですね。「きょう」の付箋カードも貼ってあるので「今日する事」として、行動の見通しがもてますね。



■カレンダーの内容(注射の予定)をコミュニケーションカードにも描き、それを持って、病院に向かう道中にも「病院で何をするの？」や「救急車が停まっているかな？」等のやり取りを深めたのがとても良いですね。帰宅後、カレンダーに貼ることで、振り返ることができますね。活動の事前・最中・事後に活用したことも素晴らしいですね。

視覚的コミュニケーション手段は、作成して終わりではなく、それらを活用して、親子のやり取りのきっかけを作ったり、やり取りを深めたり、何よりやり取りを楽しむことが大切なのだ、Aちゃん親子のカレンダーの取り組みを伺って、改めて感じることができました。

さて、12月14日(金)の「第4回聴こえない・聴こえにくい子の育て方」のテーマは『視覚的コミュニケーション手段(2)』です。ぜひ、御参加いただき、お子さんとのやり取りに活用していただければと思っています。